

各階の配置と特徴を 紹介するゴン



問総務課（庁舎管理に関すること） ☎21・2330 FAX24・7714
問新庁舎整備室（建設に関すること） ☎41・5173 FAX24・7714



③総合案内 ④コンシェルジュ・番号発券機

東玄関付近に総合案内を配置。
お客さまのご用件を伺うコンシェルジュが常駐。
窓口の場所や受付順番を明確にするため、番号発券機を導入

窓口の場所や受
付けの順番が
分かるゴン



⑤窓口

利用頻度の高い窓口を配置

県内初！
おくやみ窓口



⑥キッズスペース ⑦授乳室



お子さま連れの方
も安心だゴン



⑧FMピッカラ（ラジオ局）

災害情報などを配信する柏崎コミュニティ
放送のオフィス・スタジオを配置

机・椅子は柏崎産の
杉を使ったゴン



⑩議場

電子採決システム、大型モニ
ターを設置。
床はフラット、席は可動席なの
で、多目的な利用を想定

⑨市政情報コーナー

議場に隣接し、市の情報を
まとめて公開



⑪傍聴席

難聴者の聞こえを支援する設備
「ユニバーサル補聴システム（磁
気ループ）」を導入。車いす専
用スペースを4席確保

えちゴンと行く!

市役所新庁舎フロア案内

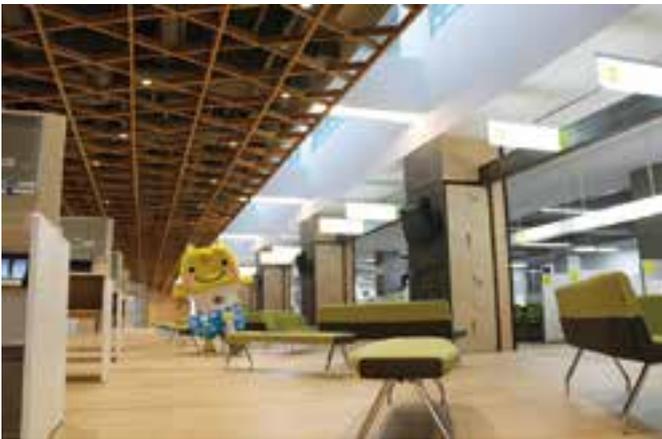
令和3(2021)年1月にオープンした、市役所新庁舎の各階の配置と特徴を、えちゴンがご案内します。

Floor Information

1階

西玄関と東玄関に面した市民ロビーを設け、動線上に市民窓口・多目的室・FMピッカラを配置

憩いの場—待ち合わせ・打ち合わせなど、自由に利用できます



①市民ロビー

利用時間…月～金曜の
18:00～20:00、
土・日曜、祝日の8:00
～20:00

椅子とテーブルも
使えるゴン

フリーWifi



無料で利用できるインターネット接続サービスを市民ロビー・多目的室などで利用できます。

②多目的室

利用時間…月～金曜の
18:00～20:00、
土・日曜、祝日の
8:00～20:00
※行政利用がない場合
のみ開放。



窓口

いらっしやいませ！



多機能トイレ

各階に設置。ご高齢の方や障がいのある方、お子さま連れの方なども、安心して利用できます



災害対策は

バッチリだゴン！

災害対策本部会議室



ロビー

米山や柏崎駅が
見えるゴン！



安心安全な環境にやさしい庁舎

防災対策

- 地震発生時の迅速な対応、行政機能の維持を目的に、免震構造を採用
 - *免震構造…建物と基礎の間に、積層ゴムなどの免震装置を設置し、地震による揺れが建物に直接伝わらないようにした構造。
- 非常用発電機を設置し、3日間の連続運転が可能な燃料を備蓄
- 太陽光発電設備とガス発電設備を設置し、予備電力として利用
- 原子力災害に備え、災害対策本部機能を維持するために、災害対策本部会議室などに放射線防護設備を整備

再生可能エネルギーの利用

- 雨水を留め、トイレの洗浄水に利用
- 地中熱を通路の融雪、空調の熱源に利用
- 太陽光発電設備、蓄電池を設置



省エネへの取り組み

- LED照明などの各種設備は、高効率型を採用。断熱性能に優れたガラスを採用し、空調の負荷を軽減
- 建築物の省エネ性能の認定制度「建築物省エネルギー性能表示制度 (BELS)」の最高ランク、ファイブスターを取得

12月12日(土)

落成式&内覧会を行いました



写真で振り返る
新庁舎ができるまで

2018年10月



建設工事のはじまり～

2019年6月



基礎工事をしているよ

2019年10月



1階床の工事をしているよ

2020年2月



3階の工事を進めているよ

2020年6月



内部工事・外壁タイル工事を進めているよ

2020年10月

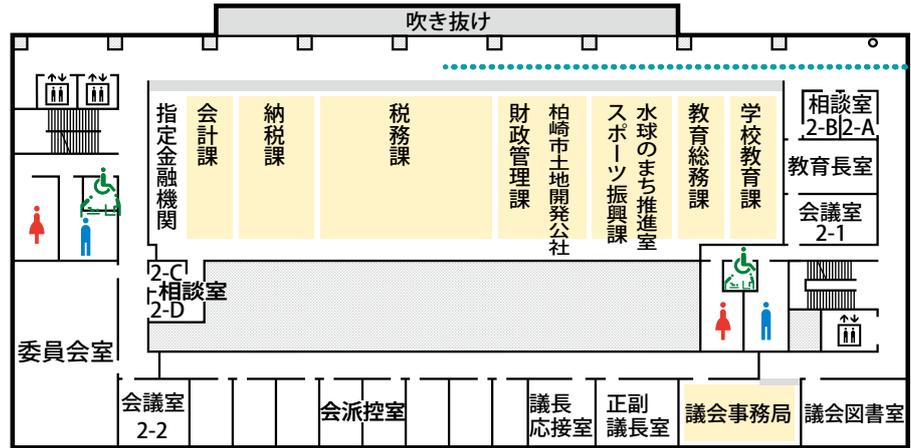


約2年かけて、完成～！

Floor Information

2階

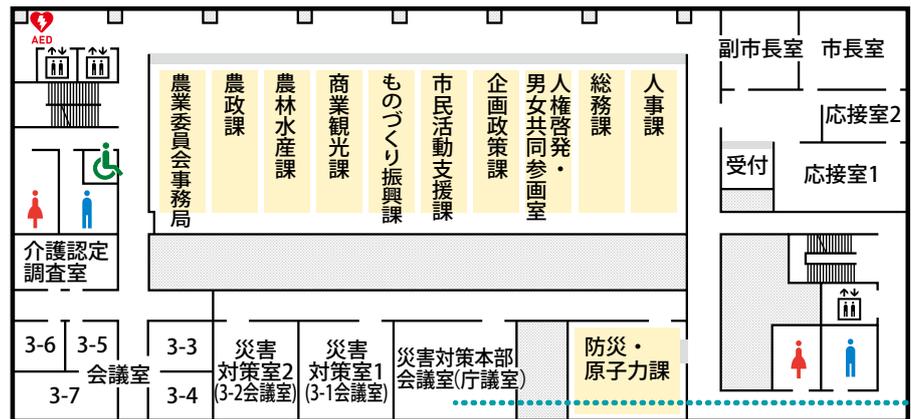
1階議場へのアクセスに配慮し、議会エリアを配置
市民ロビーとつながる吹き抜けから、1階のにぎわいが感じられる空間



Floor Information

3階

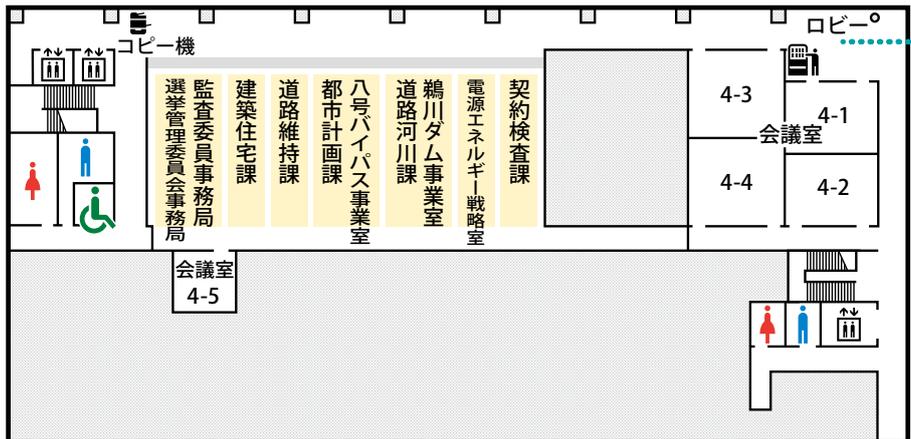
災害対策本部会議室、災害対策室を配置
災害時の対策本部として機能するフロア



Floor Information

4階

災害に備え、最上階に電気室や熱源機械室を配置
米山が見える眺望が良い南西側にロビーを配置



元気発信課

☎ 21・2311

FAX 23・5112

☎ 43・9127

FAX 22・5904

☎ 22・5904

岡市民活動支援課

地域おこし協力隊の いっぺこと話したい

元日にFMピッカラで放送された新春番組のダイジェストをお知らせします。今年は柏崎市地域おこし協力隊の4人が出演し、活動の様子を話しました（司会はFMピッカラ高橋裕美さん）。あわせて、誌面では地域の皆さんからの声も紹介します。



※写真撮影時のみマスクを外しています。

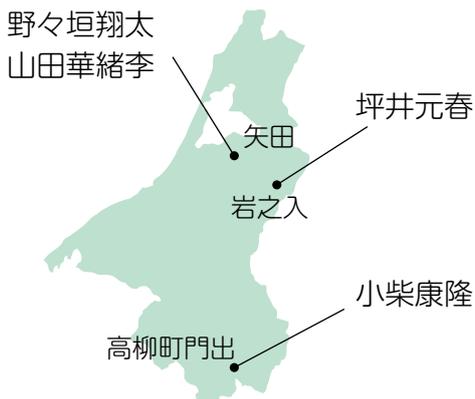
地域おこし協力隊とは

都市部などに住んでいる方を市が「地域おこし協力隊」として採用します。採用された隊員が地域の人と一緒に活動することで、地域を元気にする制度です。

「自然の中で暮らしたら」

「人とのつながりを大切にしたい」
そんな地方への思いを持つ方が地域の一員となり、地域・住民のやりたいことに向かって一緒に頑張っています。地域ごとに隊員に求めることやミッションが異なるため、隊員の活動はさまざまです。

市内では現在3地区で4人の隊員が活動しています。隊員の任期は3年です。



話したががり、聴きたがり、伸び盛り！

つぼいもとはる

坪井元春 × 岩之入

神奈川県厚木市出身の26歳。大学卒業後、建設関係の会社に就職。退職後、友人の紹介で協力隊の募集を知り、岩之入を見学。集落の人が親身に入話を聞いてくれたことが決定打となり、令和元（2019）年5月、岩之入に着任。



地域の棚田を守るべく 田んぼで日々活動中

棚田の維持のため、田んぼでの作業をしています。また、岩之入は棚田オーナー制度を活用しているので、オーナーさんの活動のお手伝いもしています。コロナ禍でオーナーさんが岩之入に来ることができなかつたため、作業風景の写真をポストカードにして送りました。僕や農家さんからのメッセージも添えています。



話したががり、聴きたがり！
地域の語り部の場づくり

コロナ禍前は、お茶会やいただいた野菜で作った鍋会を開き、岩之入の方言士が話す機会を増やそうと活動していました。年配の方から若い方まで、世代を超えたつながりが少しずつですが増えてきました。

「僕はじいじになっていった」
協力隊になって変わったこと

自分自身のことを肯定できるようになりまし。成果が出ることもあれば、出ないときもあります。行動したことそのものが評価につながることや「坪



井くん、こんなことしてたね」という反応がうれしです。こうした経験から「僕はじいじになっていった」という思いが強くなりました。

今年で着任3年目 結びの年やりたいこと

棚田に興味を持って来てくれる団体があるので、連携を深めていきたいです。また、住民がより動きやすくなるような雰囲気づくりをしていきたいです。これからも、いろいろなことにチャレンジしたいと思います。

地域の世話人さんに聞きました
岩之入集落 町内会長
池田司史さん

着任したばかりの頃と比べて、粘り強くなりましたね。集落のイベントなど、話し合いで自分の意見を言えるようになりました。坪井くんが発言してくれると、私たちの刺激にもなるし、ありがたいです。





手を動かし、心を動かすモノ・つながりを作る

やまだ かおり

山田華緒李 × 矢田

上越市出身の26歳。美術大学で染織文化を専攻。中国の少数民族「苗族」の作る藍染めの布「亮布」を研究していた。令和2（2020）年9月、矢田集落2人目の隊員として着任。



協力隊になるきっかけは中国での気付き

学生時代に中国の農村を訪ねて回ったのが協力隊になるきっかけです。どの村もパターン化された観光開発がされていて、村の文化や人の個性が失われているように感じました。その村に

集落の憩いの場「矢田屋」を復活させる

暮らす人自身が「何かやるぞー」という村づくりができないかと思つたとき、日本でも同じことが言えるのではないかと、自分も何かできるのではないかと協力隊になることを決意しました。

かつて集落の商店だった「矢田屋」のスペースを活用した、集落内外の人を集める場づくりに取り組んでいます。矢田屋の旧店主さんは、手先が器用でいろいろな技を持った地域のリーダーだったと聞いています。まずは、旧店主さんが地域の皆さんと矢田屋で取り組んでいた折り紙サークルを復活させました。地域のおばあちゃん和小さい子どもが教え合う場面を見ると、良い場所ができたと私も楽しいです。

矢田屋を拠点に市内外で活動していきたい

今年は矢田屋を使って引き続き矢田の中を盛り上げつつ、活動の幅を市内外に広げて、いろいろなことができたと思います。何かを作るのが好きなので、地域宮農の支援も行っていきます。

地域の世話人さんに聞きました
折り紙サークルと一緒に活動している
長谷川明美さん

来たばかりの知らない土地で頑張っていると思います。秋に企画した矢田屋でのイベントには、地域の皆さんが50人も集まったのでごいす。華緒李さんの活動に、私も刺激を受けています。学生時代の専攻でもある染物を実際に矢田屋で見たいですね。





普段は畑で農作業、自然と生き物が大好き の がきしよた 野々垣翔太 × 矢田

愛知県一宮市出身の24歳。大学卒業後、商社に就職。就職後、子どもの頃からの憧れだった、田舎暮らしに対する気持ちが強くなる。地方で農業をしようと決め退職し、令和元（2019）年12月、矢田に着任。

メインの活動は農業
地域行事にも積極的に参加

農業法人「矢田宮農組合」で週4日農作業に就いています。米、枝豆、マコモタケなど、1年を通し、いろいろな作物に携わっています。



また、集落の草刈りやお祭り、行事にも参加しています。新型コロナによる自粛前は東京での移住相談会にも参加し、都市部から地方に移住した若者目線で話をしました。

夏バテから解放！
農作業で体力が大幅アップ

協力隊になって、体力がすごく高まりました。夏以降、いつもなら夏バテするのですが、今年は夏バテもなく、1日作業をしても以前ほど疲れを感じなくなりました。

夏場は炎天下で作業することもあったので、日焼けして首筋や腕が真っ黒になりました。家族に写真を送ると驚かれました！

今年は矢田屋でコラボ企画も

昨年9月に矢田2人目の隊員である山田さんが着任し、矢田屋をオープンスペースとして活用できるようになりました。本業の農作業を行うと同時に、自分の特技を生かして矢田屋とコラボしたいです。魚のさばき方講座や、パソコン教室を開催したいと思います。

地域の世話人さんに聞きました

矢田集落 町内会長

山岸弘さん

初めは何も分からないようで「本当に大丈夫かな？」と心配でした。今は、仕事を覚えて一人でもできるようになり、成長しました。家から野々垣くんが畑仕事をしているのが見えると、頼もしいですね。農業はもちろん、集落ともどんどん関わってほしいです。





海の柏崎で、山里の高柳に住まう

こしば やすたか

小柴康隆 × 高柳町門出

福島県会津若松市出身の25歳。地元旅館での接客業、転職し事務職を経験。山間部の暮らしや文化を学びながら暮らせる環境を探していた時、協力隊を知る。自分の生き方、考え方を見直すべく、令和元(2019)年8月、門出に着任。



かやぶきの里・大地の学校で 生きる糧を学ぶ

主な活動は、門出かやぶきの里での宿の仕事です。布団敷きなどもありますが、野菜の栽培も仕事のひとつ。宿では地元のベテランお母さんが作った料理を出しているのですが、その料理

に使う野菜を育てています。生きる糧を学んでいます。

里山インストラクター「大地の学校」の補助もしています。先任の小林康生さん(門出ふるさと村組合長、越後門出和紙代表)が今まで経験してきた暮らしの知恵・山の文化を伝える教室です。大地に根差した暮らしを取り戻したい、若い人に伝えたいという思いが康生さんにあり、私自身も受講生のような気持ちでいます。

高柳の人は 仕事も休みも一生懸命

柏崎に来てから、休日の過ごし方が充実するようになりました。お祭りや新しい取り組みに誘っていただくこともあります。高柳の人は、仕事にすぐ一生懸命、休日もさらに一生懸命にいろいろな活動をされている方が多いです。柏崎に来る前は、何もせず休日が終わることも多かったのですが、今は休日が足りなくなっています。

門出に定住するべく 地盤づくりの一年

今年は、任期終了後の現実的な定住を視野に入れた地盤づくりをした

いです。任期終了後、どんな仕事をするか。かやぶきの宿をどう活用するか。正直、今の段階では定まっていないところもあります。将来的に地域の担い手の一員になれるような地盤をつくっていききたいです。



地域の世話人さんに聞きました
門出ふるさと村組合長、越後門出和紙代表
小林康生さん

宿の仕事では、細やかな心配りができています。稲刈りも、要領よく仕事を覚えてくれたので、助かっています。小柴くんは、普通にいてだけでお互いに助かる存在。門出の一員になってもらいたいです。



隊員に聞きました

地域おこし協力隊って、なんだろう？



坪井元春 (岩ノ入)

大した存在ではない

隊

員一人で変えられることなんて全然ない。地域に住む方を飛び越えて、元部外者が変えようなんておこがましいことなのかなと思います。隊員は地域になじむことから始めて、自分はどうなりたいのか考える時間が必要です。同時に、受け入れる地域側の「どうしていきたい」という思いも必要。どちらの思いもくむことができます。協力隊が最強です！



山田華緒李 (天田)

近すぎず、遠すぎない存在

完

完全に矢田の人ではないですが、完全にヨソモノでもないのが協力隊の魅力。だからこそ集落の人も私に話せることがあるし、新しいことを始められると思います。人同士をつなげるきっかけを作ることができるのが協力隊だと思います。



野々垣翔太 (天田)

地域を守るのも仕事

協

力隊は地域を盛り上げることに焦点が集まりがちですが、地域を守ることも仕事のひとつ。僕は集落の農作業に携わっていますが、集落の土地を守ることで、荒地地の発生や、獣・害虫・雑草の害を防ぐことができます。のも仕事だと思います。



小柴康隆 (高柳町門出)

特別なものではない

柏

崎は、協力隊の制度を調べなかつたら縁がなかつたかもしれない場所。協力隊は新しくその土地を知るための制度でもあり、それを使って定住する予備軍を作るための制度でもあるのではないのでしょうか。任期後に定住して、地域の一員になれば、一番のゴールじゃないかと思っています。

地域おこし協力隊の最新情報をチェック

FMピッカラの
ラジオ番組を聴く

ラジオ FMピッカラ (76.3MHz)

インターネット JCBAサイマルラジオ「FMピッカラ」を選択

<https://www.jcbasimul.com/>
信越 ▶ FMピッカラ を選択してください

■新春番組の再放送

対談は大変盛り上がり、広報かしわぎの誌面には収まりきらなかった話題もありました。柏崎のおすすすめポットや、隊員の趣味の話もたくさん伺っています。再放送を聞いて、ぜひ対談の全容をお楽しみください。

▼放送日…1月9日(土)の午前11時～

■レギュラー番組

「協力隊のいっぺんと話したろ」

▼内容…隊員が週替わりで出演し、活動や地域の様子などを紹介します。

▼放送日…火曜の午後1時30分～

「お昼はぴっからぞう」内

新春番組の全文を
ホームページで読む

■新春番組全文公開

インターネット KASHIWAZAKI LIFE BLOG

<https://www.kashiwazaki-life.jp/post/2021fm>

ホームページで番組の模様を全文掲載しています。また、ホームページ限定のコメントやこの誌面で紹介できなかった写真も掲載しています。

フェイスブックで
最新情報を見る

インターネット Facebook 「柏崎市 地域おこし協力隊」

@kashiwazaki.kyoryokutai

地域おこし協力隊に興味のある地域に市民活動支援課が伺います。お気軽にご連絡ください。